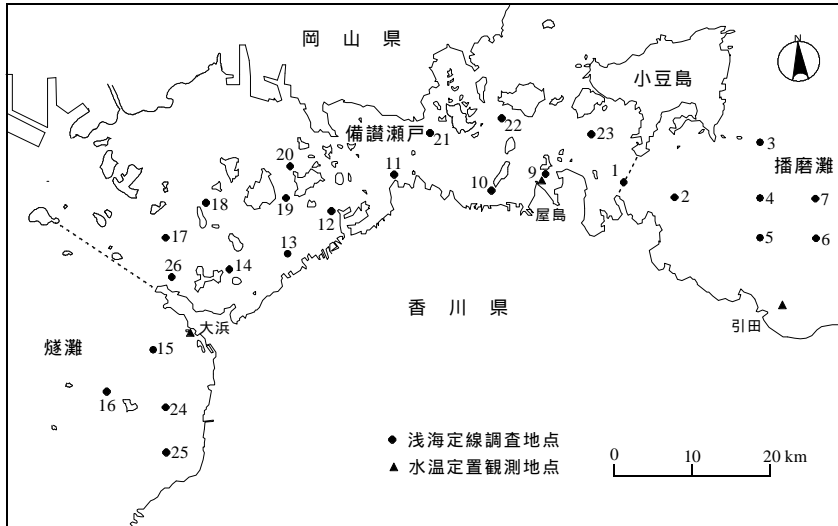


香川県漁海況速報 平成17年 8月 (H17- 5号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成 17 年 8 月 3 日 (播磨灘), 2 日 (備讃瀬戸, 燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並みからやや高め」、塩分は「平年並みからやや高め」、透明度は「やや低めからやや高め」、溶存酸素は「かなり低めからやや高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	26.0	24.9	22.1	32.0	32.0	32.2	8.7	4.34	3.43
	平年値	25.5	24.2	22.3	31.5	31.6	31.9	7.9	4.99	3.25
	平年偏差	0.5	0.7	-0.2	0.5	0.4	0.4	0.8	-0.65	0.18
	状況	平年並み	やや高め	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	かなり低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	25.4	24.6	24.2	32.2	32.3	32.3	6.4	4.16	4.01
	平年値	25.2	24.6	24.3	31.6	31.6	31.7	4.8	4.42	4.10
	平年偏差	0.2	0.0	-0.2	0.7	0.7	0.6	1.6	-0.26	-0.09
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや高め	やや高め	やや高め	やや低め	平年並み
燧灘	4地点平均値	28.1	24.4	21.9	32.0	32.4	32.6	8.5	4.51	3.86
	平年値	27.5	23.8	21.7	31.7	32.0	32.3	10.1	5.01	3.17
	平年偏差	0.5	0.6	0.1	0.3	0.4	0.3	-1.6	-0.50	0.69
	状況	平年並み	やや高め	平年並み	平年並み	やや高め	平年並み	やや低め	やや低め	やや高め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

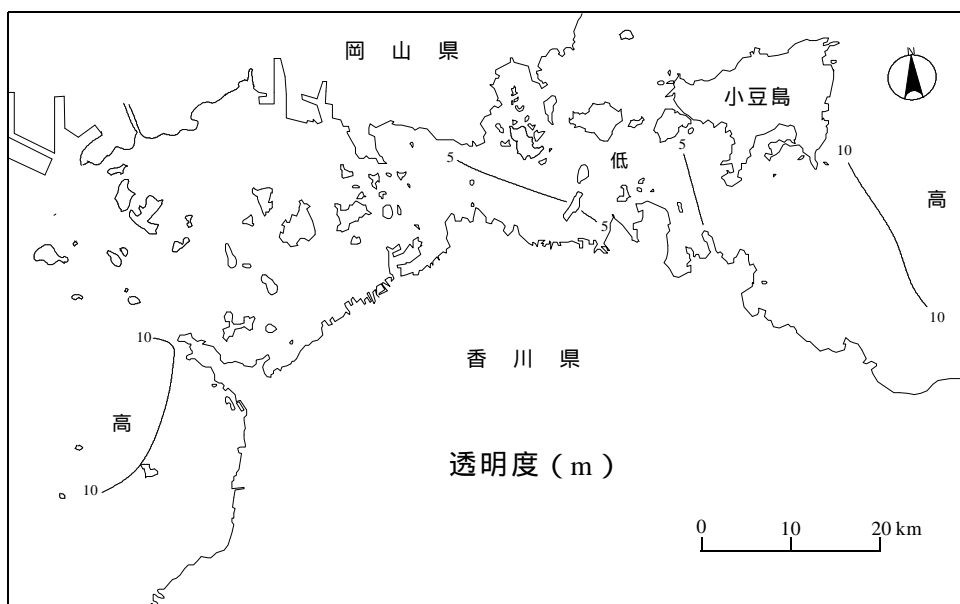
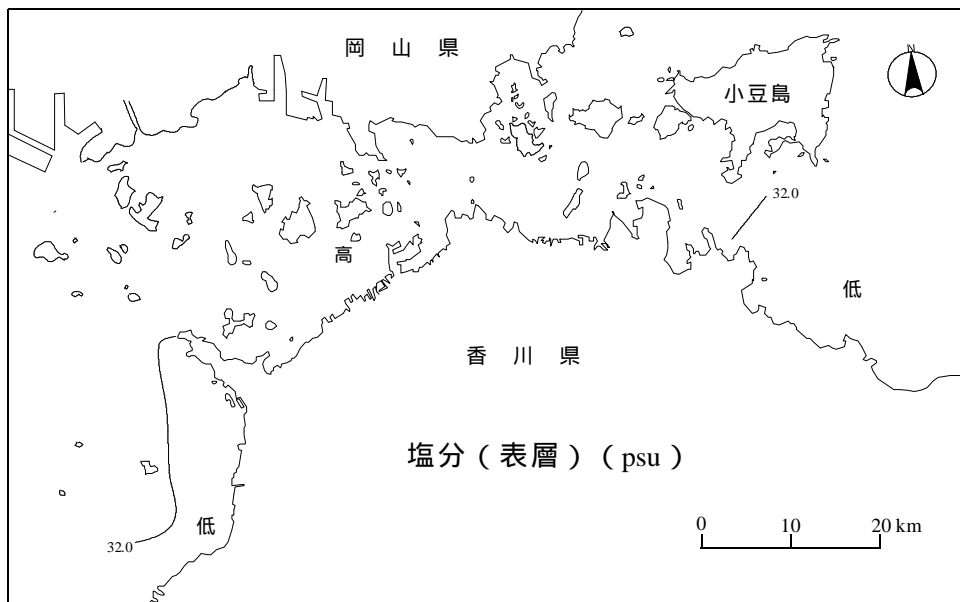
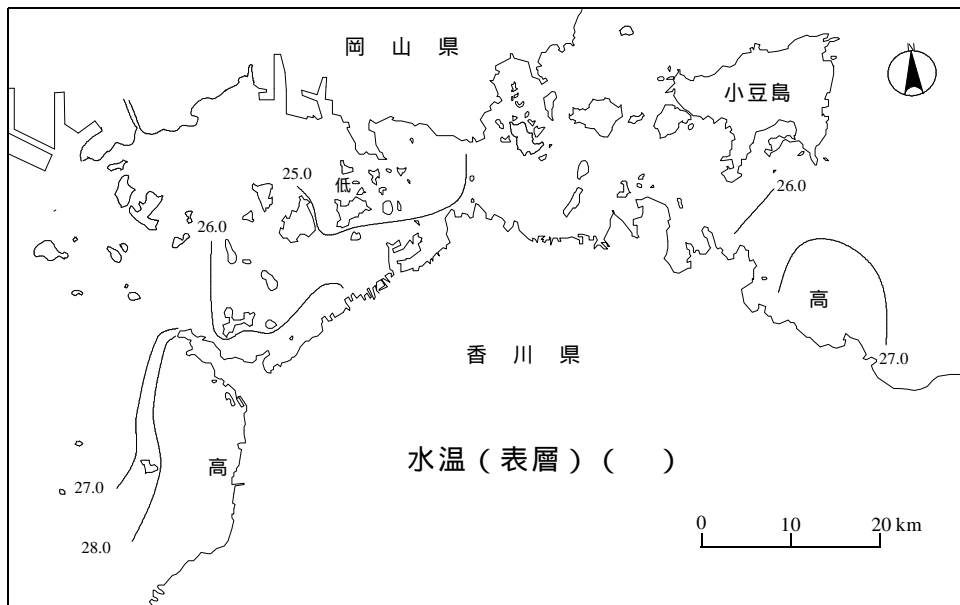
平年値の算出期間

水温, 塩分及び透明度: 昭和 48 年 (1973) 1 月 ~ 平成 13 年 (2002) 12 月

溶存酸素: 昭和 48 年 (1973) 2 月 ~ 平成 13 年 (2002) 12 月

水温は, 毎月 1 日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



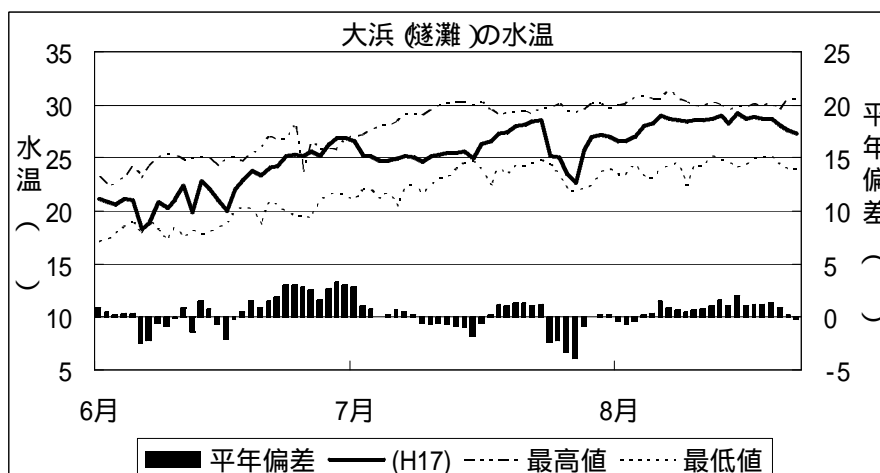
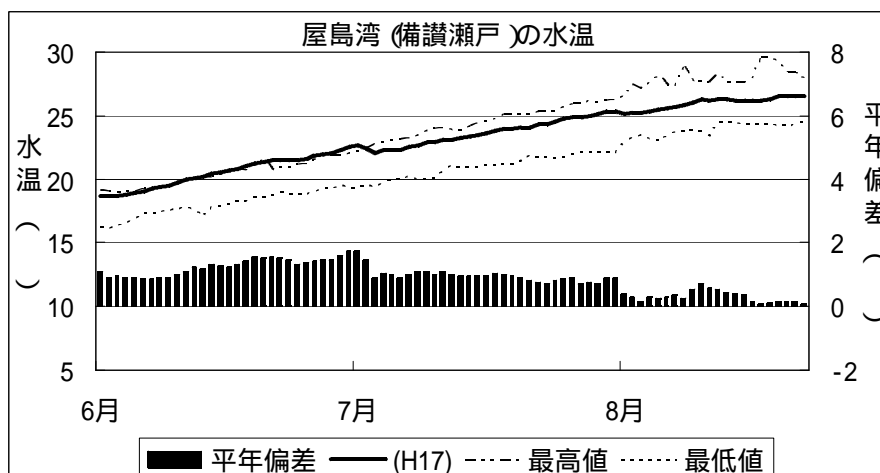
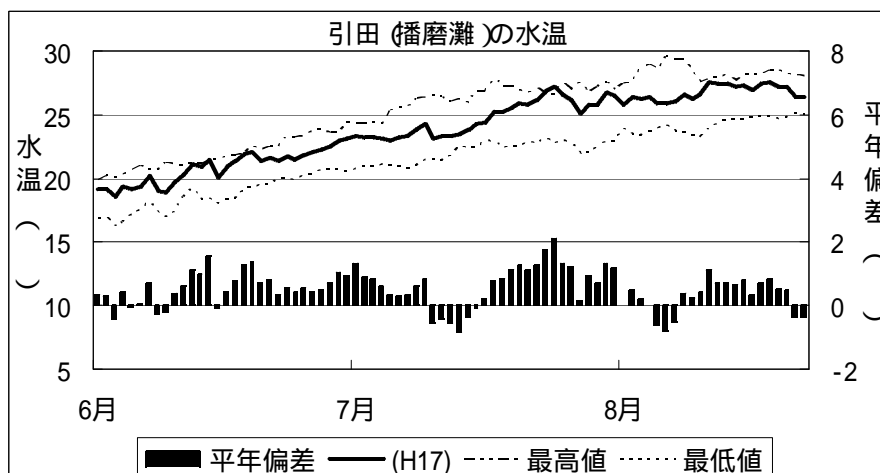
2) 定置観測(水温)

播磨灘(引田): 7月上旬は平年偏差が1 前後で、中旬には一時 - 0.5 前後に低下し、下旬には2 まで上昇した。8月上旬には一時 - 1 まで低下したがその後上昇し1 程度で推移し、下旬には平年値をやや下回っている。

備讃瀬戸(屋島): 7月は平年偏差が1 前後で推移した。8月に入り少し低下し、中旬には少し上昇したが、その後低下し平年値程度で推移している。

燧灘(大浜): 7月に入り平年値前後から平年値を下回り、中旬には平年偏差が1 前後で推移した。下旬には一時 - 4 に低下した後上昇し8月上旬まで平年値前後で推移した。中旬には2 程度で推移した後低下し、平年値前後で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成14(2002)年
屋島: 昭和50(1975)~平成14(2002)年



3) 赤潮

播磨灘：発生なし。
 備讃瀬戸：発生なし。
 燧灘：発生なし。

4) 卵稚仔

調査日：平成17年8月3日（播磨灘），2日（備讃瀬戸，燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	6.00	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00	8.40	24.30
備讃瀬戸平均	6.30	7.80	0.00	0.00	0.00	0.00	25.80	18.50
燧灘平均	69.70	23.90	0.00	0.00	0.00	0.00	16.30	2.30
総平均	21.00	9.63	0.00	0.00	0.00	0.00	18.93	16.27

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	36.8%	7.0%	-	-
備讃瀬戸平均	588.8%	928.6%	-	0.0%
燧灘平均	323.1%	367.1%	-	-
総平均	211.7%	228.2%	-	-

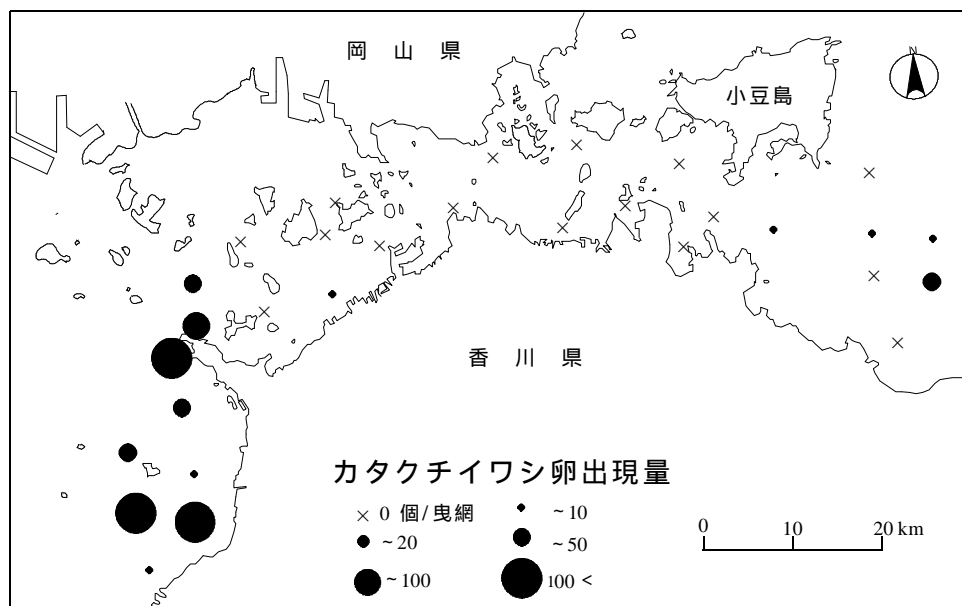
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成16（2004）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成16（2004）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



2. 漁況

7月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網は主に小型エビ類，ウシノシタ類，マダイ，マダコ等が漁獲されているが，全般的に低調である。</p> <p>大型定置網では主にマルアジ中心に漁獲され，8月上旬にクロマグロ(20kg 前後)数十尾が漁獲されたが，全般的に低調である。</p> <p>東讃のシラス船びき網の7月の漁獲量は，著しく低調だった前年の2倍以上となっているが，平年(1989～2003)の73%程度で低調な漁模様であった。8月に入っても低調な漁が続いている。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類，メイタガレイ，小型エビ類，コウイカ類が漁獲されている。</p> <p>マナガツオ流し刺網は前年同様低調な漁獲である。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主に小型エビ類，オニオコゼ，ガザミ，コチ類，トリガイを漁獲しているが，8月に入ってマダコ，クルマエビの漁獲が増えてきた。</p> <p>イワシ機船船びき網の7月下旬までの漁獲量は前年の88%，平年(1993～2004)の136%であったが，生産金額は前年の145%，平年の172%であった。銘柄別では大羽が前年の30%と不漁であったが，中羽，カエリ，チリメンがそれぞれ前年の440%，200%，290%の漁獲があった。</p>